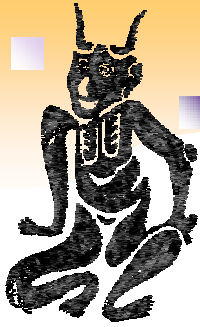


発行日:平成18年11月5日

発行所:法雲寺



元三大師の化身・角大師

東林山 法雲寺

〒667-1311兵庫県美方郡香美町村岡区村岡2365

TEL:0796-98-1151・1161 FAX:0796-98-1168

法雲寺報

<http://www.houun.net> Eメール:kouryu@houun.net

開宗1200年記念参拝を終えて

10月12～13の記念参拝には26名の方々がご参加いただきました。絶好の参拝日和に恵まれ、開宗1200年の嘉辰に多くの方々と共に参拝出来たこと、誠に幸いでした。

私自身が団体参拝に不慣れなことで、ご参加頂いた方々にご不便・ご不自由な思いを掛けたのではないかと反省仕切りです。

さて今回は天台宗開宗1200年ということで参拝をさせて頂いたのですが、1200年という時の流れは、確かに我々の日常を超えるものがあります。

しかし、我々の歩んできた歴史は、先人が積み上げてきた蓄積の上に立ち、それを受け継ぎ発展させ、次の時代に託す。という営みを今まで際限なく、繰り返してきました。

天台宗が開宗1200年を迎え現在も存続していることもまた、そんな当たり前の営みの一

つに過ぎないと言うと、少しバチ当りでしょうか？

1200年前の平安朝の昔、時代の宗教的な天才と弘法大師と並び称された伝教大師はそれまで断片的に日本もたらされていた仏教を比叡山に集大成し、今日の天台宗の基礎を作り上げました。それから今日まで1200年です。

当たり前のことですが、伝教大師ご本人が1200年たった現在まで、天台宗を発展継続させてきたわけではありません。1200年間続いて来たのは、伝教大師から有名無名の弟子達に、その弟子から孫弟子さらに次の代へと伝教大師の志が受け継がれ、その時代に応じて発展適応してきたからに他なりません。

これは天台宗だけに限った特別なことではないと思います。日本の国にしても、我々の日常にしても同じことでは無いでしょうか？今に続くすべてのものが、先人が形作ったものを受け継

ぎ、発展させ次代に託す、この繰り返しがあって今に続いています。きっと、この繰り返しがあれば未だに我々は横穴式の住居で寝起きしていたかもしれません。

一人の人間が成長して一人前となり、一時代を預かり活躍できるのはせいぜい長くて30～40年程度の事でしょうか？何かをゼロから始めて完成させるには決して十分な時間の長さではありません。人は先人が残してくれた知識や技術などの資産を受け継ぎ、自分の受け持ちの時代で多少の改良を加えて次代に渡している。人の歴史は単にその繰り返しを行っているに過ぎませんが、こんな繰り返しがあってこそ、初めて文化や科学や生活が充実するのではないのでしょうか？



朝の根本中堂

しかし、最近の我々日本人はどうやら、こんな繰り返しのことなどコロッと忘れてしまっています。

先人が積み重ねてきた基礎の上にどっかりと腰を下ろしているにもかかわらず、今あるのは、我々が努力してきた賜物、今ある状態が当たり前の状態と考えている人が多いのではないのでしょうか？

そこには先人から受け継いだという思いも感謝もなければ、次代に理想を引き継がせようと言う意志も感じられません。

今や先人から何かを受け継ぎ、次代に継承させるなんてことが余り意味を持たないと思う人が増えています。

「次は次で好きに考えたらいい…」一見、理解に満ちた思いやりのある言葉に聞こえますが、本当にそうなのでしょうか？なんとなく親世代の責任放棄のように聞こえます。

しっかりとした精神的な柱や、はっきりとした目的も育っていないままに、次代を自由に任す

ことが正しい判断なののでしょうか？昨今の状況を見るに、その答えは既に出ているように思えます。

何度も繰り返しになりますが、「前時代からの継承と発展、そして次代への継承」この繰り返しのよって人はここまでやってきました。今やその繰り返しが機能なくなっています。そこには知識や技術の蓄積など出来るわけありませんし、そこから派生する文化や国としての中身もあやふやなものとなっても仕方ないように思えます。

開宗1200年から大きくそれました・・・もう、既に育ってしまった世代は仕方ありません、今更どうにも成らないでしょう。問題はこれから育っていく世代にどのような働きかけが出来るかです。せめて「善悪の判断」くらいの常識を備えた世代を育まなければならないと思います。

開宗1200年記念比叡山参拝

本年度、懸案の行事である「比叡山参拝」が10/12～13と絶好の参拝日和に恵まれる中、26名の方々のご参加を得て行うことができました。

12日は午前7時に村岡を出発し、途中京都駅を経由して、先ずは伝教大師の廟所・浄土院参拝、午後は比叡山の最北の地、横川へ向い横川中堂・四季講堂を参拝。参道を歩く時間が長かったですが、好天にも助けられ十分に比叡山の静寂を楽

しむことが出来ました。夕刻には阿弥陀堂にて延暦寺出仕僧7名による特別回向をして頂き、その



三千院門前でのスナップ

後は新装された延暦寺会館にてゆっくりとす後させて頂きました。

13日は大原三千院へ下り、鮮やかな緑に囲まれた境内を散策したり、お土産屋さんを覗いたり・・・一泊二日でゆったりとした日程でしたので比叡山を十分に満喫出来たのでは？と感じて

います。

ご参加いただいた皆様、準備に奔走いただいた役員様のご協力で、開宗1200年の記念参拝実施できましたこと、お礼申し上げます。

秋季お彼岸のお参り

まだ幾分夏のなごりが残っていた9月21日に婦人部の方々が中心になって、秋のお彼岸のお参りに上がってもらいました。



般若心経や自我偈など短いお経やご詠歌をお唱えし、その後、最近問い合わせが多くなった「永代供養」のこと等住職が説明したり、質問を受けたりしました。

春と秋のお彼岸、年2回・40分程度のお参りですので、婦人の方以外でも、お気軽にご参加下さい。

お大師講のご案内

恒例のお大師講を本年度も下記の如く実施いたします。お大師講は天台宗の高祖・天台智者大師の威徳を偲ぶと共に、檀家各家の歴代零位のご供養や、この一年の無事を感謝し、来年の多幸を祈念する集いです。お忙しいことかと思いますがご参拝下さい。(昨年は50名の方がご参加下さいました)

・期日：平成18年11月23日(10時半～1時)

・会費：各戸1000円(昼食代等に充当)

・申込：地元の方は役員へ、遠地の方は法雲寺へ